

修了生インタビュー

井手 勝也さん(2期生)

株式会社グルーps SG第三統括部 統括部長

ゼネラリストのスペシャリストやアントレプレナーを養成する目的で設立された本研究科(RBS)には、起業を志す受講生も少なくありません。今回は在学中に起業後、人気ソーシャルゲーム会社gloops(グルーps)でボードメンバーを務める修了生をご紹介します。

—今話題のソーシャルゲームのプロデュースを手がけられているそうですね。

グルーpsは携帯電話やPC向けのソーシャルアプリを開発している会社です。現在は会社運営にかかわる一方で、『欧州クラブチームサッカー BEST☆ELEVEN+(ベスト☆イレブンプラス)』などネットゲームにかかわる制作や複数のプロデュースの統括をしています。

—RBSへの入学のきっかけを教えてください。

起業しなかったから。高専時代は半導体について学んでいたのですが、学部時代の亀川先生(=亀川雅人教授)の授業が面白かったため、RBSに進むことを決めました。

—印象に残っている授業はありますか？

ビジネスシミュレーションです。メンバーみんなが働きながら取り組んでいるので、意思決定と同時にその場で対応できる人が作業をする、という形で進めていきました。おかげで、財務会計の基礎知識が身につきました。

—在学中に得たものでもっとも大きなものはなんですか？

友人、人脈。いろいろな仕事をしている人がいて、ビジネスシミュレーションなどのグループワークを通して、「信頼できる友人」に出会えたことが、今の仕事につながっています。

—将来的には起業を考えながらも、なかなか決心がつかない受講生も少なくありません。起業するには、事業計画や資金調達はもちろんのこと、心構えも業績を左右する要素になりそうですね。



PROFILE 1972年熊本県生まれ。地元高専卒業後、就職。立教大学経済学部経営学科編入を経て、2003年にRBSへ入学。RBS在学中に起業し、後継者へ事業を委譲後、ドワンゴなどIT企業を経て現職。3児の父。

はい。極端なたとえですが、起業するなら3年間無給でもいいという状況と覚悟が必要です。そして、一緒に事業を立ち上げる仲間も同じ志であるべきだと思います。RBSでの出会いや学びもそのヒントになることでしょう。

—在校生へのメッセージをお願いします。

在学中は仕事との両立が大変で、寝る時間がないくらいがむしろに過ごした2年でした。ディスカッションにしても、同じ知識レベルでないと取り残されてしまう。それまで「アイデアをまとめる」という仕事をしていましたが、「一緒に決めていく」ということをじっくり学んだのがRBSでした。大学院で学ぶ知識は無駄になりません。「本気で学ぶ」ことを頑張ってください。



編集後記

EDITOR'S POSTSCRIPT

一から出版物をつくらなかった経験がなかったものでとても勉強になりました。とはいっても、私がお手伝いしたことはとても少なく、完成できたのは編集長をはじめとした他の皆さんのおかげです！次回はもっと貢献できるように頑張ります！！

(飯野和恵)

今回のBiz Comは、12期生で企画した初めての創刊号です。制作に携わり、RBSは様々な学びの機会が提供されていることを再発見しました。Biz Comが皆様にとっても、発見につながる情報網となれば幸いです。引き続き、宜しくお願い致します。

(伊村 彩)

学内で話題のビジネスシミュレーションの記事に携わることができました。どのチームも熱い理念を持ち、異なる経歴の仲間と深夜まで語り合う姿から、今後立大生によって世の中へ新しいビジネスを誕生させていく兆しを感じました。

(川原千明)

美しく、活動的な女性達に囲まれ楽しく活動出来ました！！

(滝沢 司)

小学生の新聞発行以来の体験。編集長と一緒に卒業生インタビューにも同行できて、ラッキーな体験。インタビューはつつい話に聞き入ってしまいます。情報を受ける側から発信する側へ。読みたい文章を書けるようになりたい。編集長ありがとうございます！！

(山原聖子)

12期編集部として初のBizCom発行にこぎ着けました。取材を通して、ビジネスシミュレーションという授業の重要性を再認識しました。タイトな日程の中、取材や寄稿、掲載にご協力くださいました皆様ありがとうございました。ご意見・ご感想もぜひお寄せください。

(星 裕水)